

「創立10周年記念論文集」の発刊にあたって

奈良産業大学は1984年（昭和59年）4月に創設され、本年、創立10周年の記念すべき年を迎えた。その間、「現実に立脚した学術の研究と教育を通じて、明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の養成」を目指し、「時代の進展に対応し得る広い視野と創造性」をつちかい、「誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力」を養うという教育理念を掲げ、充実した教授陣と恵まれた自然環境のもと、着々とその地歩を固め、現在では、関西における社会科学系の重要な大学として、その存在を認められるに至っている。

本誌「産業と経済」は、本学経済学部を母体とする「奈良産業大学経済学会」の機関誌であり、経済学部の専任教員を中心とする研究成果の発表の場であり、また経済学部学生との学問交流の重要な媒体の一つであるが、このたび、本学、経済学部の創立10周年を記念して、「創立10周年記念論文集」を特集することとなった。

本学経済学部は、研究対象とする産業経済・企業経営を経済学を中心とする社会科学理論を基礎として、その実証的・具体的解明をはかるという学部創立以来の学風をうけついで発展してきた。すなわち、現実の複雑な現象・実態を経済学との関連のもとに理論的に解明するとともに、他方、その技術的側面をも具体的に析出し、理論と実証の統一的把握を目標として進んできた。そして、先輩スタッフのご努力により、いまその基礎づくりが完成したところである。このようなとき、本論文集の刊行をみたことは、誠に時宜を得たものといえる。

この論文集は、本学経済学部に所属する経済学科・経営学科および一般教育担当のスタッフが総力をあげて執筆し、総数24篇にもおよぶ大冊となっている。10年前の「開学記念論文集」と比べると、隔世の感を禁じ得ない。

10年という期間は、時代を画する一つの区切りであり、わたしたちの経済学部は、さらにつぎの飛躍に向けての発展の重要な時期に直面している。わたしたちは、創立期の「基礎形成の時期」から進んで、その内容のさらなる充実と新しい諸問題の開拓に取り組み、研究活動の一層の発展を期さなければならない。

その意味において、この論文集をわたしたちのこれからの「充実発展の時期」への力強い第一歩として意義づけたいと思う。

1994年6月

奈良産業大学経済学会会長

山 上 達 人